

弘前大学医学部医学科 各学年のアウトカム【令和8(2026)年度以降入学者】

	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	5 年次	6 年次
PR: プロフェッショナルリズム	●人の生命と健康を守ることを理解する ●常にふさわしい身だしなみ・態度・言動など自己の行動に責任を持つことができる ●患者・家族・医療スタッフに対して、敬意と配慮をもって接することを理解できる	●医師の社会的責任と職業倫理の重要性を説明できる ●患者の尊厳、プライバシー、自己決定権を尊重することの意義を説明できる ●医療安全、利益相反、研究倫理を理解し、学生として適切な行動をとることができる	●高い倫理観と責任感を持って診療にあたる必要性を説明できる ●患者の尊厳、権利、プライバシーを尊重した医療の重要性を説明できる ●医療安全、インフォームド・コンセント、説明責任の重要性を理解し説明できる	●倫理観、責任感、適切な態度を実践できる ●守秘義務、個人情報保護、患者の権利を理解し説明できる ●医療安全、インシデント報告、チーム医療における責任の所在について説明できる	●医療チームの一員としての自覚を持ち、責任ある態度で行動できる ●守秘義務、個人情報の尊重を臨床現場で実践できる ●医療安全に配慮し、インシデントやヒヤリ・ハット事例について指導医に報告できる	●医療チームの一員として責任を持ち、規範と倫理に基づいた行動を実践できる ●守秘義務、個人情報保護、患者の尊厳の尊重を常に意識し行動できる ●医療安全の重要性を理解し、問題点に気づいた場合には適切に報告・相談できる
GE: 総合的に患者・生活者をみる姿勢	●患者を「疾患」だけでなく「生活者」として捉える視点の重要性を説明できる ●健康問題が、身体的要因のみならず心理的・社会的背景と関係していることを理解できる ●多様な医療現場の存在を知り、医療が社会の中で果たす役割の概略を理解できる	●疾患が患者の生活・心理・社会背景と密接に関係していることを説明できる ●ライフステージ(小児・成人・高齢者)によって健康問題が異なることを理解できる ●地域や家庭環境が健康に与える影響の基本的な考え方を説明できる	●疾患を生活背景や社会的要因と関連づけて考える重要性を説明できる ●複数の疾患や問題を併せ持つ患者を理解し、全人的に捉える必要性を説明できる ●ライフステージや地域性によって、医療ニーズが異なることを説明できる	●統合的学修を実践できる ●複数の健康問題を併せ持つ患者に対し、全人的視点で考えることができる ●地域医療や在宅医療の基本的な考え方を説明できる	●担当患者について、疾患だけでなく心理・社会的背景を含めて情報を整理し説明できる ●複数の問題を有する患者に対して、指導医とともに優先順位を説明できる ●退院後の生活や社会復帰を見据えた医療の視点の重要性を説明できる	●担当患者に対し、医学的問題と心理・社会的背景、生活状況を包括的に評価できる ●複数の健康問題を有する患者に対して、指導医のもとで優先順位を整理決定できる ●退院後や地域での生活を見据えた医療の視点を持って患者を捉えることができる
LL: 生涯にわたって共に学ぶ姿勢	●生涯にわたる学習が不可欠であることを説明できる ●主体的に学修計画を立てることができる ●自己の学修状況を振り返り、改善点を言語化する習慣を身につけることができる	●学修計画を立てて継続的に学ぶ姿勢を実践できる ●自身の理解度を客観的に評価し、学修方法を改善できる ●将来のキャリア形成に向け、基礎力の重要性を説明できる	●医学知識の統合のため、自ら学修方法を工夫し継続的に学ぶことができる ●試験結果や自己評価をもとに学修計画を見直し改善できる ●臨床実習に向けて主体的に準備を進める姿勢を身につけることができる	●共用試験に向け、自ら課題を設定し計画的に学修を進めることができる ●自己の弱点を把握し改善のための学修計画を立てることができる	●実習中の疑問点を自ら調べ、理解を深める学修習慣を実践できる ●フィードバックを受け、自身の課題を認識し改善に努めることができる ●臨床現場で学び続ける姿勢の重要性を説明できる	●臨床現場で生じた疑問を自ら調べ振り返り、次の診療に活かすことができる ●フィードバックを踏まえて、自己の課題を明確化し継続的に自己研鑽できる
RE: 科学的探究	●医学・医療が科学に基づいて発展してきたことを理解できる ●文献や資料を用いて情報を収集し、根拠に基づいて考察する姿勢の重要性を理解できる ●研究不正や研究倫理の基本的考え方について理解し、守るべきルールを理解できる	●医学論文や教科書の記載が、どのような科学的根拠に基づいているか学修できる ●研究倫理、インフォームド・コンセント、個人情報保護の基本概念を説明できる ●医学・生物学の基本的な統計手法を理解できる	●ガイドラインの根拠を意識して学修できる ●臨床研究や治験の基本的な仕組みと倫理的配慮について説明できる ●指導により研究プロセス(仮説設定、研究計画立案、実施、解析、発表)を遂行できる	●診断・治療方針が、臨床研究やガイドラインに基づいて決定されていることを説明できる ●エビデンスの質を意識して文献を読む必要性を説明できる	●担当患者の診断・治療方針について、ガイドラインや文献を参照して根拠を説明できる ●EBMの基本的な考え方を臨床実習の中で実践できる ●臨床研究や症例報告における倫理的配慮の重要性を説明できる	●診断・治療方針について根拠を説明でき、次の展開を見つけることができる ●エビデンスの限界を意識して判断できる。 ●臨床研究や症例報告における倫理的配慮の重要性を理解し実践できる
PS: 専門知識に基づいた問題解決能力	●人体の構造と機能の基礎を説明できる ●単なる暗記ではなく、理解に基づく学修を実践できる ●身近な健康問題を基礎知識で理解し、説明できる	●人体の構造と機能を体系的に説明できる ●正常構造と機能が、病理理解の基礎であることを説明できる ●基本的な医学知識を用いて、症状や異常所見について考察できる	●病態生理、各臓器における疾患の病因・病態・症状・検査・治療の基本構造を説明できる ●代表的な症候から鑑別を考える過程を説明できる ●基礎医学と臨床医学の知識を関連づけて症例を考察できる	●主要症候から鑑別と初期対応を説明できる ●代表的疾患の診断から治療までの基本的な流れを説明できる ●模擬症例に対して、医学的問題点を整理し、論理的に考察できる	●病歴、身体所見、検査結果を整理し、主要な問題点を指導医とともに抽出できる ●鑑別診断を挙げ、根拠を説明できる ●診断・治療方針について、指導医の指示のもとで適切に考察し提案できる	●担当患者の情報を統合し、鑑別診断と対応方針を指導医のもとで整理できる ●代表的疾患や緊急性の高い病態について、初期対応の流れを実践できる

IT: 情報・科学技術を活かす能力	●情報リテラシー教育を通じて、レポート作成や文献検索ができる ●個人情報の取り扱い、SNS 利用、情報モラルについて基本的なルールを説明できる ●医療や医学研究において、情報技術が果たす役割の概要を説明できる	●文献検索データベースや電子教材を活用し、必要な情報を適切に収集できる ●情報の信頼性（査読の有無など）を意識して学修できる ●医療情報の取り扱いに関する倫理的配慮の重要性を説明できる	●データベースやガイドラインの検索と整理ができる ●複数の情報源を比較し、情報の妥当性や信頼性を考慮して学修に活用できる ●電子カルテや医療情報システムの基本的な役割と意義を説明できる	●複数の情報源を比較し、情報の妥当性や信頼性を考慮して学修に応用できる ●電子カルテや医療情報におけるセキュリティと倫理的配慮の重要性を説明できる	●電子カルテや検査システムを適切に使用し、必要な診療情報を収集・整理できる ●臨床的疑問点について、ガイドラインや文献データベースを用いて調べることができる ●医療情報の取り扱いにおけるセキュリティと倫理的配慮を実践できる	●電子カルテや医療情報システムを適切に使用し、必要な情報を収集し応用できる ●臨床的疑問点について、文献やガイドラインを検索し、要点をまとめて共有できる ●医療情報の取り扱いにおけるセキュリティと倫理を常に意識して行動できる
CS: 患者ケアのための診療技能	●医療現場における医療者の役割を理解できる ●医療面接や診察行為がどのように行われているかを観察し、その意義を説明できる ●将来習得すべき診療技能の全体像を理解できる	●基礎的な診察手技や医療面接の流れについて、講義・実習を通じて説明できる ●将来必要となる診療技能（問診、診察、記録）の全体像を理解できる ●臨床実習に向けて、必要な態度・準備について説明できる	●医療面接、バイタルサイン測定、身体診察の流れを説明できる ●問診から問題点を整理する基本的な手順を実践できる	●基本的診療技能を実践できる ●診療チームの一員として診療行為に参加できる準備が整っている ●感染対策、医療安全に配慮した行動を実践できる	●指導医の下で基本的な身体診察を適切に実施できる ●基本的な医療手技について、見学・補助・一部実施ができる ●感染対策と医療安全に配慮した行動を主体的に実践できる	●指導医の下で、医療面接、身体診察、基本的検査・処置を適切に実施できる ●病棟・外来において、患者対応や診療補助を主体的に行うことができる ●感染対策と医療安全に十分配慮した行動を常に実践できる
CM: コミュニケーション能力	●相手の話を傾聴する姿勢、分かりやすく伝える姿勢の重要性を説明できる ●患者・家族・教職員に対して、礼節をもった適切な言葉遣いで対応できる ●コミュニケーションが医療の安全と質に直結することを理解できる	●基本的なコミュニケーション技法（傾聴、共感、要約等）を説明できる ●他者の意見を尊重しながら議論に参加できる ●患者や医療者との間で、誤解やトラブルが生じる可能性を理解する	●患者に対する説明や質問の仕方について説明できる。 ●患者・医療者双方の立場を意識したコミュニケーションを理解できる ●医療チーム内での情報共有の重要性を理解できる	●患者に対して、分かりやすく丁寧な言葉で説明や質問を行うことができる ●患者の不安や疑問に配慮した対応を説明できる ●医療チーム内で、必要な情報を適切に報告・共有できる	●担当患者や家族に対して、指導医の指示のもとで適切な言葉遣いと態度で対応できる ●患者の訴えや不安を傾聴し、要点をまとめて指導医に報告できる ●医療チーム内で、必要な情報を適切に共有できる	●患者や家族に対して、状況に応じた分かりやすい説明と配慮ある対応ができる ●患者の訴えや問題点を整理し、医療チーム内で適切に報告・共有できる ●多職種と円滑に意思疎通を図り、医療チームの一員として行動できる
IP: 多職種連携能力	●医師以外にも多様な医療専門職が医療に関わっていることを説明できる ●職種により異なる役割と専門性を持っていることを理解できる	●各専門職（看護師、薬剤師、リハビリ職等）の役割を説明できる ●多職種が協働することの意義と、それぞれの専門性の違いを説明できる	●医療は、多職種によるチーム医療で成り立っていることを、具体例を挙げて説明できる ●各専門職の役割と責任の違いを理解し、医師の役割について説明できる ●診療チームの一員として適切に行動するために必要な姿勢を説明できる	●臨床実習、多職種と協働する意義と基本姿勢を説明できる ●各職種の役割を尊重し、医師としてどのように関わるべきかを説明できる ●チームの一員として、指示・報告・連絡・相談の重要性を説明できる	●多職種スタッフと協働して診療していることを理解し、説明できる ●各専門職の役割を理解し、尊重した態度で接することができる ●カンファレンスや回診に参加し、多職種連携の実践ができる	●多職種の役割と専門性を理解し、お互い尊重しながらチームの一員として行動できる ●カンファレンスや回診に参加し、治療方針決定に主体的に関与できる ●チーム医療におけるリーダーとしての医師の役割と責任を実践できる
SO: 社会における医療の役割の理解	●日本の医療制度の概要と医療が社会に果たす役割を理解できる ●地域医療、公衆衛生、予防・防災医療の概念の基本を説明できる	●医師の専門性と社会的責任について説明できる ●医療資源は有限であり、地域における医療の公平性・効率性が重要であることを理解できる	●日本の医療制度、保険制度、公衆衛生の基本構造を説明できる ●医療の進歩が社会に与える影響について説明できる ●医師として社会的責任を果たすことの重要性を説明できる	●医療の高度化・専門化が社会にもたらす影響について説明できる ●医師として法令・社会規範を遵守する必要性を説明し、実践できる ●人の死ならびに死に関する社会制度について理解できる	●実習を通じて、地域医療、急性期医療、慢性期医療の役割の違いを説明できる ●医師として社会的責任を果たすことの重要性を実感し、具体的に説明できる ●医療資源の制約の中で医療が提供されている現実を理解できる	●地域医療、急性期医療、慢性期医療、在宅医療の違いを踏まえた医療が実践できる ●医師は、社会的責任と公共性を担う立場にあることを自覚して行動できる